

# 京都府におけるエゾモリアリヅカムシの記録

伊藤建夫<sup>1)</sup>・谷 壽一<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 614-8371 八幡市男山雄徳 7 番地 E12-102 E-mail: itokiyoto@gb3.so-net.ne.jp

<sup>2)</sup> 〒 614-8002 八幡市八幡土井 4-3

## Record of *Tychus yezoensis* Nomura (Staphylinidae, Pselaphinae) from Kyoto Prefecture, W Japan

Tateo ITO and Toshikazu TANI

モリアリヅカムシ属 *Tychus* の種は北海道から九州まで広く分布している。エゾモリアリヅカムシ *Tychus yezoensis* Nomura, 1996 (図 1) は北海道大沼から記載された種で、野村周平博士によると原記載以降の記録はなく、京都府八幡市からの記録は本種の 2 番目の記録となるばかりではなく、本州からの初記録となるということである。また、タイプ産地の環境は日当りのよい、ヨシの茂る湿地であるとされており、今回の京都での採集地点の写真と簡単な説明もつけて報告したい。

2009 年 10 月 7 日、台風 18 号の通過に伴い木津川が増水し、木津川河川敷全域が冠水した。濁流によって多くの木や葦が流され、河川敷や樹木にさまざまな堆積物が引っ掛かった状態で残されていた。冬季に木津川河川敷右岸のヤナギ・エノキなどが点在するヨシ類・ススキ群落の中に溜まっ



図1. 京都府で採集されたエゾモリアリヅカムシの全形図(写真は野村周平博士)。



図3. C地点の環境。

た堆積物をシフティングしたところ、多数の甲虫、カメムシ類とともに本種が得られた。

図2のように木津川河川敷のBからG地点で堆積物をシフティングし 200～600g を持ちかえりソーティングした結果、エゾモリアリヅカムシを含め、エラハリムネトゲアリヅカムシ *Petaloscapus temporalis temporalis* Jeannel, ホソハラクボアリヅカムシ *Batriscenellus (Batriscenellus) fragilis* (Sharp), トサオノヒゲアリヅカムシ *Bryaxis gracilipalpis* Jeannel, スクシヒゲアリヅカムシ *Poroderus similis* (Sharp), コヤマヒゲトアリヅカムシ近畿大陸亜種 *Diartiger fossulatus ispartae* (Karaman) の 6 種

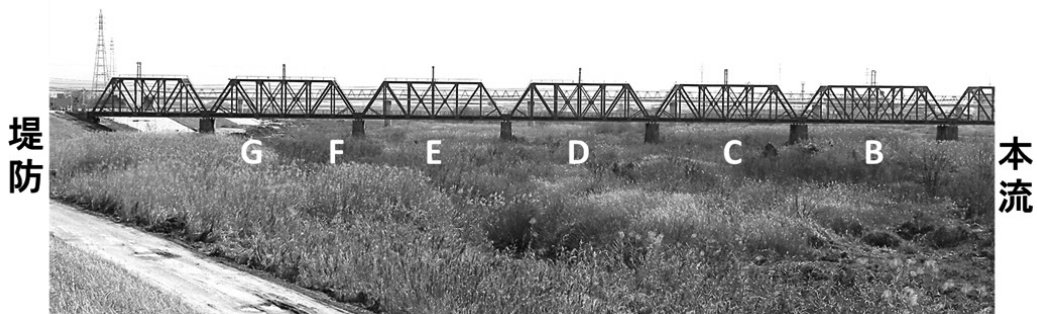


図2. 八幡市木津川河川敷での採集地点の環境写真。

表1. 確認されたアリヅカムシ.

和名	調査地点					
	B	C	D	E	F	G
エラハリムネトゲアリヅカムシ	○	○	○			○
ホソハラクボアリヅカムシ	○	○	○			○
トサオノヒゲアリヅカムシ		○	○			
ススキクシヒゲアリヅカムシ	○	○	○			
コヤマヒゲトアリヅカムシ近畿北陸亜種						○
エゾモリアリヅカムシ		○				

のアリヅカムシが確認された。確認状況を表1に示す。

エゾモリアリヅカムシはC地点のみで捕獲され、ここは左岸の河川敷中ほどの日当たりのよいヨシ原で、増水時には冠水する。F, Gはたまりがあり、その周囲にヤナギがある。Eは乾燥しており、ここではアリヅカムシは確認できなかった。わずかな環境の差で生息種が異なり、エゾモリアリヅカ

ムシは生息環境の選好性が狭いのかかもしれないが、今後の調査を期待したい。

<モリアリヅカムシの採集データ> 1♀, 京都府八幡市木津川右岸, 30. i, 2010; 1♂1♀, 同左, 7. ii, 2010. 谷壽一採集。

末筆ながら同定の労をとられ、本種の解説と記録の報告を助めていただいた野村周平博士に厚く御礼申し上げる。

#### 引用文献

Nomura, S., 1996. A revision of the tychine pselaphids (Coleoptera, Pselaphidae) of Japan and its adjacent rejoinis. Elytra, Tokyo 24: 245–278.

(2016年1月6日受領, 2016年2月12日受理)

#### 【短報】愛媛県におけるアリノスコブエンマムシの記録

アリノスコブエンマムシ *Eucuritopsis ohtanii* (K. Sawada) は、好蟻性のエンマムシであり、アズマオオズアリ *Pheidole fervida* Smith の巣で生活することが知られている (大原, 1996; 丸山ほか, 2013)。本州, 四国, 九州に分布するとされており (丸山ほか, 2013), 四国では徳島県から1例記録があるのみである (吉田ほか, 2010)。筆者は愛媛県で本種を採集しているので報告する。

lex. (図1), 愛媛県松山市高縄山, 23. V. 2015, 筆者採集・保管。

採集個体は、高縄山の標高約920mの付近で、石下のアズマオオズアリのコロニーから採集した。

本稿を記すにあたり、本種に関する情報や文献

を御教授いただいた酒井雅博博士 (東温市), 岩田朋文氏 (愛媛大学), アリの同定をしていただいた久末遊氏 (同), 本文の校閲をしていただいた吉富博之博士 (同) にお礼を申し上げます。

#### 引用文献

丸山宗利・小松 貴・工藤誠也・島田 拓・木野村恭一, 2013. アリの巣の生きもの図鑑, 208 pp. 東海大学出版会, 神奈川。

大原昌宏, 1996. 日本産エンマムシ上科概説II. 甲虫ニュース, (114): 1–5.

吉田正隆・黒田祐次・田中光治・櫻木大介, 2010. 阿波市阿波町及び吉野町の甲虫. 阿波学会紀要, (56): 61–70.

(岡野良祐 790-0905 松山市樽味3-5-7 愛媛大学大学院農学研究科環境昆虫学研究室)

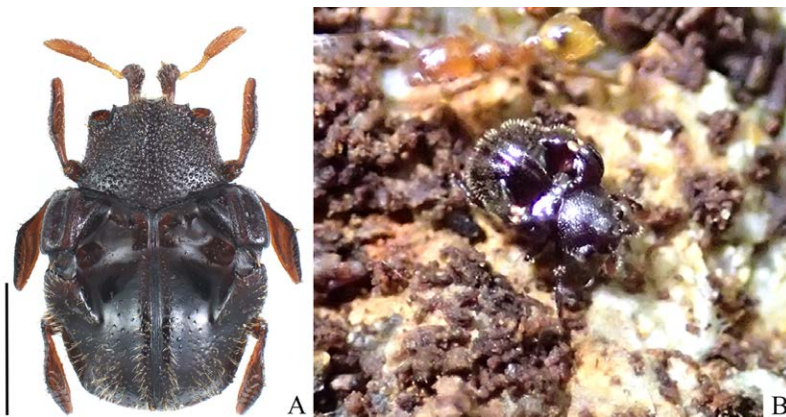


図1. 愛媛県産アリノスコブエンマムシ. A, 背面図 (スケールは1 mm); B, 生態写真。